

必ず甦る 日本と日本人

東日本大震災を乗り越えてつくり出す国の姿とは



あすと長町で建設された応急仮設住宅では入居が進んでいる(宮城県仙台市)

姜 とりあえずは避難所、次は仮設住宅、そして本格的な復興住宅ですが、それも阪神大震災の時では、プライバシーの確保と同時に、みんなが見えて繋がっている避難所のよさを生かしたパブリックスペースをつくるべきだとなりました。両方のニーズをあわせることとなれば教訓が生きているのですが。

姜 経済がまわるというのは、人

渡辺 お花見も自粛ムードでした。実際は仮設トイレを被災地に送ってしまつて数が足りなかつたことも原因だつたようですが、普通に生活するというのは大事なことです。

姜 私たちは過剰な自粛は止めて平常な状況にもどるように努めるべきです。風評があつてもできる限り地場の物を買う、食べる。そして観光、流通、サービスなどをいままです以上に活発にして、東北を助けるための経済の力を働かせていかなければなりません。

渡辺 3月11日以降、私たちの生活も大きな影響を受けている点はいかがでしょうか。

姜 国や自治体は、インフラ、道路や電力、電信、上下水道、そして住宅を早く復旧させる。漁港の復興も問題です。

渡辺 国も県も企業もあげての総力戦ということですね。

はなく新たな次元の復興を、それも早くやらないといけないのです。



渡辺 真理 わたなべ まり

フリーアナウンサー

1967年神奈川県横浜市生まれ。国際基督教大学(ICU)教養学部卒業。1990年に入社したTBSを1998年3月に退社。同年5月よりテレビ朝日「ニュースステーション」のキャスターとして出演。現在、フジテレビ「熱血!平成教育学院」(日曜19:00~)、テレビ東京「地球VOICE」(金曜21:54~)、TBSラジオ「JOMO presents 渡辺真理のこトバ遺産~未来に伝えたいあの一言~」(月曜17:50~)に出演中。他にも雑誌連載「我ら劇場主義」(週刊ポスト)、「渡辺真理の読書日和」(ROSALBA)など執筆活動も行っている。



谷状の町は津波によりほぼ壊滅。高台に建つ女川町立病院の1階部分も激しく損傷している(宮城県女川町)

の喜び、悲しみ、苦しみ、楽しみがあつてこそです。花見であれば東北の銘酒や産品を楽しむ、それは東北の人にとってはありがたいことになる、普段の生活を続けたい

渡辺 率直に何って、ここから日本は甦るのでしょうか。

姜 必ず甦るでしょう。経済でも今までのような量的拡大を競うのではなくて、産業界の意識が変わり、他が真似できないクオリティの高いものの競い合いになるでしょう。世界有数のブランドはすべて非常にローカルなものです。日本はローカルの可能性をたくさん持っていますが、それをグローバルブランドにする翻訳機能が少ないのです。イタリア、フランスはドイツと比べると遥かに生産力は低いのですが、ブランドでは群を抜いて世界に評価されています。そんなブランドを日本でもたくさん育て上げるべきです。

渡辺 私が局アナのとき、日本の地方の竹細工をリサーチに来たティファニーが、高度で美しい、世界に売り出すからぜひティファニーに扱わせて欲しいとして製品化していました。日本ではなく海外が評価する、どうも日本人は海外のブランドだけを珍重しすぎるきらいがあるかと思うのですが。

姜 映画のコンクールでもアジアに出すよりは欧米に出す方が評価

がら多種多様な支援をする、行ける人はボランティアに行く、それが基本なのでしょう。

渡辺 災害が起きた直後は外国から驚きの目で見られていたようですね。

姜 日本は安定した社会で、ハリケーン・カトリナの来襲時のような人種差別がもとに起きた暴動や略奪もありませんでした。日本は均一の社会であり、格差をなくするというコンセンサスもできています。戦後60年日本が一貫して築いてきた、可能な限り平等という社会づくりが成功したからです。

渡辺 日本は自然や経済力にも恵まれていて、穏やかな人たちがモラルやルールを守りながら暮らし

されると思われています。桂離宮もブルーノ・タウトが評価したら日本でも見直されました。しかしそういう時代も過ぎつつあるのではないのでしょうか。

渡辺 日本という国はどんな国なのか、どんな風土でどんな地形で、人々はどんな気立ての人々なのか、私たちが自身が知っていないと日本の経済も政治もまちづくりも進められないと実感します。

姜 司馬遼太郎さんのいう「坂の上の雲」は2回ありました。ひとつは日露戦争のあとでそれが関東大震災で崩壊します。2回目は戦後の経済復興でそれが今回の災害で大きく傷つきました。今はその教訓を生かし、日本は自己理解を深め、世界各国と違う競争の土台をつくっていくと間違いなく甦ると思うのです。

渡辺 まちづくりへのご提言がありましたら。

姜 先ほどお話しましたランドスケープのデザインですね。環境がいかにその土地らしい、心地よい、住みやすい、そして美的にも優れている、そういうホッとす

ている。それがこの国の特性だとしたら、この上なくうれしく、自分の中にも引き継がれているならとてもありがたい無形の財産だと思います。

姜 みんなが粛々と行動し、イレギュラーな言動は慎みます。しかし現地ではみんな泣き叫びたい衝動を必死に抑えています。事態があまりにひどいので茫然自失といつていいかも知れません。しかし時間が経つと本当に悲しくなる、苦しくなる、そういう時に自然な感情を露させることは大事です。現地でのボランティアはそういうときにただ話を聞くのが大切な役割で、今はひとりひとりへのそういうケアが必要となってくるでしょう。自主的に現地にかける若者がそんな役割を果たすと、日本は震災でも絆が強いというモデルケースになると思いますね。

日本は甦る

渡辺 これまでの震災を見ても直後の1カ月も大変ですが、それ以降こそ試練の時を迎えるかと思えます。

空間の創造ですね。そして間違いなくいえることは、「安心・安全」で、しかも息苦しくなく、人間が活発に生きられる空間でしょうね。

渡辺 そう遠くない未来、そのような新しい東北が生まれているように心から祈ります。ありがとうございます。



※4 ドイツの建築家。第2次世界大戦のさなか、ナチスからの迫害を逃れるために日本へ移住。文筆活動を通じ、日本人が気づかなかつた日本文化の素晴らしさを世界に紹介した。(1880-1938)